

題名：税の平等とは  
港区立青山中学校3年

じ	の	収	う	こ	一	七	え	い	税	る	万	五	違	レ	体	瞬	
割	は	入	か	の	ム	百	ま	一	金	中	で	百	違	ム	驗	間	私
合	、	の	か	と	は	五	す	と	を	で	す	万	う	ム	し	が	は
で	な	い	な	き	二	十	が	思	集	、	。	、	う	で	験	間	、
負	い	い	い	私	千	万	、	い	め	図	三	百	取	ム	し	た	税
担	り	り	り	は	百	円	実	ま	は	書	チ	万	入	ム	た	一	に
す	厳	厳	チ	、	万	、	際	し	「	館	一	、	が	与	一	税	つ
る	チ	チ	問	に	円	B	の	た	ど	を	ム	B	え	ら	税	金	い
II	通	し	感	に	を	チ	金	。	の	建	合	チ	ら	れ	金	を	そ
公	し	よ	が	じ	支	チ	額	た	チ	て	わ	一	ム	れ	集	め	の
平	て	よ	が	ま	払	チ	度	し	ム	る	せ	億	ム	ま	め	る	考
一	氣	う	百	に	う	ム	見	か	も	た	た	、	ム	し	ゲ	、	え
で	づ	に	五	こ	こ	ム	る	に	三	め	て	C	ム	た	に	る	が
は	い	思	十	れ	こ	は	と	割	割	に	一	チ	ム	ム	ム	ム	大
な	い	た	万	が	れ	百	、	合	ず	は	億	チ	ム	ム	ム	ム	き
い	と	え	円	。	が	五	、	は	つ	は	、	A	ム	ム	ム	ム	く
と	は	た	円	。	平	等	、	は	出	た	、	チ	ム	ム	ム	ム	変
い	、	か	も	。	等	な	、	は	せ	た	、	ム	ム	ム	ム	教	わ
う	一	で	負	。	な	り	、	は	ば	は	、	ム	ム	ム	ム	室	つ
こ	同	す	担	。	の	ま	、	見	い	の	、	ム	ム	ム	ム	で	た
			し	だ	す	C	、	見	た	の	、	ム	ム	ム	ム	ゲ	
			か	ろ	。	チ	、	見	し	の	、	ム	ム	ム	ム		

題名：税の平等とは  
港区立青山中学校3年

こと	税に	わなく	税金に	て支え	当たり前	警察や	識する	いるこ	すが今	払うも	これま	が生ま	のため	く、図書館	税金は誰か	ても大切	連帯のよ	とどす。
だけ	につい	なりま	ついて	りて	いま	消防、道	ように	こと、将来	は、自分も	のーと	まで私は	まれまし	に使わ	のよ	のよ	のよ	うな意	という考
けで	いりま	して	「自分	ます。	するも	路や公	なりま	は支え	も間接的	印象を	、税に	た。こ	れどが	に「社会全	に使われ	うな意	考え	。収入が
な	く	考えた。	に	ます。	のもの	園な	したた	る立場	に税の	に對し	もつて	とが多	めに使	めに使	めに使	識が	え、	が多い人が
く、	え	えた。	に	ます。	の関係	な	たた	る立場	例え	もつて	「大人が	いと知り	が使	が使	が使	が、税の	かと感	が、みんなが
・	・	・	・	・	な	に	たた	る立場	ば学	「大人が	いと知り	り、納得	うもの	うもの	うもの	のし	じま	多く納める
自分	が	こと	は	それ	に多く	は	日々の	にな	恩恵を	が勝手	」な	が勝手	感	」な	」な	くみに	じました。	なが無理
が	どん	た	た	に	の多	ど	の生	るこ	受けた	に	た。	た。	感	な	な	く	ました。	なが無理
どん	な	だ	だ	い	くは	、	校や病	とを	受けた	で	に	た。	感	な	な	く	ました。	なが無理
な	社会	制	度	こと	てから	によ	院	意	て	で	に	た。	感	な	な	く	ました。	なが無理
社会	で	生	き	と	は	につ	に	を	て	で	に	た。	感	な	な	く	ました。	なが無理
で	き	を	き	と	思	は	に	を	て	で	に	た。	感	な	な	く	ました。	なが無理
き	て	し	き	と	思	は	に	を	て	で	に	た。	感	な	な	く	ました。	なが無理

## 題名：税の平等とは

港区立青山中学校 3 年